2006

連合徳島

ボランティアサポートチーム

第６期生報告集

第６期連合徳島ボランティア・サポートチームの修了に寄せて

日本労働組合総連合会徳島県連合会
会　長　　藤　原　　学

第６期『災害救援養成講座』を受講された皆さんには、貴重な休日を返上しての熱心なご参加とご協力に心から敬意と感謝を申し上げます。今回の取り組みによって、ボランティア・サポートチームへの登録は９５名となり、少しづつではございますが、広がりを見せています。連合徳島ボランティア・サポートチームは、地域の中で活動する労働組合の役割として、地域住民の一員であることを自覚し、災害時のリーダー育成と組合員のボランティア意識の向上、労働組合としてのネットワークを生かした地域貢献、地域住民とのふれあいの中から共生と協働を確立するための事業として発足し、おかげを持ちまして６期目の講座を終了することができました。

昭和南海地震は、昨年の１２月２１日で満６０年が過ぎましたが、当時、徳島県内では 200 余名の尊い命が犠牲になり、各地で甚大な被害をもたらしました。いま、南海地震が今後３０年以内に５０％、さらに５０年以内では８０％の確率で発生すると予測され、いつ起きても不思議ではない状況にあります。県内では、震度５強を超える揺れによって広い地域が被害を受け、同時に沿岸部には津波が押し寄せると想定されています。

徳島県では、こうした事態の備えとして昨年の６月『とくしま地震防災県民会議』を発足し「南海地震発生時の死者ゼロ」の実現のため、『とくしま地震防災県民憲章』を制定しました。この憲章には、①自らの生命・財産は自らで守るという「自助」、②自分たちの地域は自分たちで共に支え合うという「共助」、③行政が地震や津波に強い社会作りを進めるという「公助」を基本として、『一人ひとりが、地域防災について正しい知識と技能を身につけよう』『家族みんなで我が家の地震防災対策について話し合い実行しよう』『地域のみんなが参加する実践的な自主防災活動を行おう』『学校や事業所等で主体的な地震防災活動に取り組もう』『市町村は、総合的な地震防災計画を着実に推進します』『地震に強い徳島づくりのため、自助・公助・共助の連携体制を作ろう』等、家庭・地域・学校・職場・行政が役割を十分果たすと共に、相互の密接な連携と協働が大切であるとし、尊い生命や貴重な財産を守るため、共に力を合わせ一体となって地震防災対策に取り組むことを決意するとなっています。

連合徳島は、引き続きボランティア・サポートチームによる人材育成と広域連合としての防災協力体制の確立を進め、『災害救援養成講座』についても、市民との協働した取り組みとして市民参加を進め、講座内容についても尚一層の充実を図りたいと考えています。

結びとなりますが、今後ともご指導とご協力をいただきますようお願いを申し上げますと共に、ご指導いただきました関係諸団体の皆様に心から感謝申し上げ、お礼のご挨拶といたします。

第６期講座を修了して思うこと

連合徳島ボランティア・サポートチーム
養成講座運営委員会　運営委員長　　富岡　佳代子

大規模地震の緊迫性に対する関心度はあっても、地震は台風と違い「いつどこで発生する」のか判らず「いつ発生する」という実感がなく、また地震の被害に遭った者が周りに少ないなど、防災意識の低下が防災対策の低下につながっていると思われます。阪神・淡路大規模地震などの事象をもとに災害の概況や死亡原因などを具体的に知り、自ら震災に対する対策に取り組む必要があります。

果たして今回のカリキュラムは魅力ある講座であったか否か？30 年以内に震度７以上の東海･東南海で地震が起こるであろうと言われ久しいが、対応できる知識・技術を習得できたであろうか？

死亡者ゼロを限りなく目標に目指し意識を高めることができたであろうか？自分の命があってのボランティアです。阪神・淡路大震災では、死亡の 88%が家屋の倒壊による圧死でした。危険な木造家屋を耐震化することによって、地震の被害は大幅に削減されると考えられます。もっと自分の住む家の耐震補強が万全かを考えるべきです。

行政等に任せきりではなかろうか？他人ごとと考える向きがあるのではないか？自分さえ良ければいいと言う社会風潮の中なればこそ災害について学び、命の尊さに接する機会をもつことが重要ではないか。

災害は忘れた頃やってくると謂います。まさにそのとおりで、昨年は阪神・淡路大震災 10 年ということで国・県主催の防災が大きく報道もされ一時的に関心も高まったものの時間が経過すると防災意識も低下してしまうものが現状であります。果たして今年も継続して関心を持ち続けられるであろうか？このボランティア・サポートチームの果たす役割は何か。継続して受講することこそ大規模災害に対して瞬時の対応力となるのではないでしょうか。

２００６ボランティアサポートチーム養成講座参加者

名前	名前	名前	名前	名前
井川　樹里	佐伯　明典	中川　智史	藤原　　学	山下　昭彦
川越　敏良	佐々　秀昭	中野　修次	前田　孝子	山下　健一
木本　　正	杉川　公章	中村　光輝	松下　賢二	山田　善弘
工藤　隆司	高橋　　修	西山　幸宏	松下　俊郎	山藤　正義
蔵本セイ子	田中　昭征	能美　道則	溝俣　和哉	山本　芳幸
小林　史典	谷脇日出正	藤田　宏之	峰行　一夫	横田恵実子
斎藤　和子	富岡佳代子	藤本　恭士	村浪　彰英	吉田　耕造

事務局　　加村　祐志

大規模自然災害、連合徳島の果たす役割

兵庫県南部地震、鳥取県西部地震など、改めて自然の恐ろしさを痛感させる災害が発生しています。

そしてこの一連の地震は、次の南海地震の前触れに相当する内陸地震であり、２０年以内に南海地震が発生する可能性もあるとされています。

そして、この南海地震はＭ８．４規模を想定する研究者も多く、この場合、県南部では震度５～６の揺れが予想され、その上、１０分以内に津波が襲う。とされています。

こうした状況をふまえ、徳島県に大規模災害発生した場合を想定する場合、連合徳島の果たす役割は、何か。

※　構成組織の事業所内の自然災害発生時に備えて取り組むべきマニュアルの提示。

※　自治体への政策制度要求。

※　連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動の推進。

などがあげられます。

特に、３点目の連合徳島自らがおこなう防災対策とボランティア活動を推進するために、緊急時における連合徳島災害対策本部を設置し、ボランティア救援隊を組織する必要があります。

災害対策本部は連合会長を対策本部長とし、ボランティアの受け入れや組合員の安否確認、情報の収集・提供、など各地協・構成組織と連携しながら、救援センターとしての役割を持つ必要があります。

ボランティア救援隊は、そのリーダーとなるべき人を養成するため、組合員を中心に広く市民から募集し、ボランティア・サポートチームとして日常的に実践的な教育訓練をおこなう必要があります。

連合徳島ボランティアサポートチーム運営要綱

趣旨

連合徳島ボランティア・サポートチームは、今後発生が予想される、大規模自然災害に対して連合徳島構成組織、連合徳島各地域協議会、行政と連携し災害救助活動に従事することで、被害の軽減と拡大防止をはかることにあります。

また、国内で発生する大規模災害に際しても，一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、連合徳島ボランティア・サポートチームを派遣します。

上記の災害救援活動を効率的におこなうために、参加者に教育訓練をおこないます。

名称

「連合徳島ボランティア・サポートチーム」とします。

登録

参加登録を希望する方は、連合徳島に登録されます。

脱退

次の場合は登録を取り消します。

① 本人の希望により取り消すとき

② 対象者の条件に合わなくなったとき

派遣

徳島における災害発生時のサポートチームの派遣は、連合徳島災害対策本部の設置と同時に派遣出動体制を確立します。

国内で発生する大規模災害に際しても，一定の条件が整う場合は、連合徳島の派遣決定により、派遣要請がおこなわれます。

活動

サポートチームの活動内容は、教育訓練により会得した対応能力に応じた支援活動とします。

徳島における災害時の活動は、支援ボランティアの受け入れや調整、各種の生活支援活動とします。

国内での災害時の活動は、地方連合会や行政と連携し、支援をおこなうこととします。

教育･訓練

登録メンバーは、知識と技術向上のため、別に定めるカリキュラムに従い教育・訓練をけることとします。

保険

登録メンバーは、「ボランティア保険」に加入することとします。

事務局

連合徳島ボランティア・サポートチームの事務局は次の場所に設置します。

〒７７０－０９４２

徳島市昭和町３丁目３５－１徳島県労働福祉会館内

日本労働組合総連合会徳島連合会

℡　０８８－６５５－４１０５　ＦＡＸ　０８８－６５５－４１１３

Ｅ－ＭＡＩＬ

info@tokushima.jtuc-rengo.jp

２００６ボランティア・サポートチーム養成講座

	開催予定日		講座内容	講師等	場所
1	4月22日	(土)	開講式・オリエンテーリング、行政説明「徳島市における取り組み」、防災ビデオ	連合徳島会長 藤原　学 徳島市危機管理課	とくしま県民活動プラザ ６６４－８２１１
2	5月20日	(土)	一般救命講習（心肺蘇生法、自動体外式除細動器・ＡＥＤ、止血法等）	徳島市東消防署	徳島市東消防署 ６５６－１１９５
3	6月17日	(土)	実践体験講習Ⅰ（災害について） 救急法・担架搬送・ロープワーク等	徳島市東消防署	徳島市東消防署 ６５６－１１９５
4	7月29日 ～30日	(土) (日)	野外活動　救助法・森林教室・木工教室・間伐・植林等 「連合の森」サポート	森林労連等	美馬市木屋平 中尾山「平成荘」
5	8月19日	(土)	県外研修視察（阪神淡路大震災、人と防災未来センター・神戸市）		人と防災未来センター 神戸市
6	9月1日	(金)	徳島市総合防災訓練（市民参加による防災、救助、救急医療トリアージ、家屋火災消火訓練等）		吉野川河川敷
7	10月21日	(土)	実践体験講習Ⅱ（災害図上訓練等）	徳島市東消防署	徳島市東消防署 ６５６－１１９５
8	11月18日	(土)	講演「南海地震を体験して」 総括討論・修了式	連合徳島会長 藤原　学 元徳島市消防局長 市川　勝美	県労働福祉会館502号 ６２５－５１１１

２００６ボランティア･サポートチーム養成講座報告

４月２２日（土）

開講式・第１講座には、２３人が参加。連合徳島・藤原会長から養成講座の意義と激励を受けた後、徳島市危機管理課・吉富課長から「徳島市の防災対策について」講演を受けた。吉富課長から東・南海地震に係る防災対策の推進に関する特別措置法や徳島市防災対策推進実施計画等について詳しく説明を受け､「大規模な地震発生時に広域的に発生する災害に迅速に対応するため、住民との連携による地域防災力を強化することが重要」と話された。

質疑の後、参加者から養成講座に参加するきっかけやそれぞれの思いなど自己紹介が行われ、１１月までの各講座の内容・日程等について説明・意見交換が行われた。

５月２０日（土）

第２回講座は一般救命講習として徳島市東消防署で開催し、２５人が参加。救命についての説明後、三角巾を使っての止血方法や人工呼吸・蘇生訓練をした。また、今回はじめてＡＥＤ（自動体外式除細動器)の使用についても指導を受けた｡講習終了後、参加者に徳島市東消防署から｢普通救命講習修了証｣が交付された。

６月１７日（土）

第３講座－実践体験講習Ｉ（災害について）

徳島市東消防署救助隊員の指導のもと２９人が参加。日常生活でも利用でき、役立つロープワークを訓練。もやい結び、巻き結びなどロープに惑わされるも、多くの隊員の親切な指導と仲間同士で教え合いながら何とか体得。毛布を使った担架搬送訓練や、川などで溺れている人への救助法などを学習した。

７月３０日（土）～３１日（日）

第４講座「連合の森」サポート

地球環境にやさしい労働運動をめざした「連合の森」親子サマーキャンプが、７月 29 日（土）～30 日（日）、美馬市木屋平の中尾山・平成荘で開催し、昨年を大幅に上回る 137 人が参加した。

12 時 30 分から体育館で開会行事を行い、連合徳島・藤原会長、徳島森林管理署・荒畑署長からあいさつを受けた。

13 時からの昼のイベント①として「間伐体験

（救助法）」「木工工作教室」「植物研修」の 3 班に分かれ、森林管理署、森林労連の方々の指導のもと実施された。

特に、木工工作教室（50 限定）は大人気で、杉板に穴をあけ時計を埋め込み、文字盤をどんぐりや木の実・枝などをボンドで貼り付けたり、マジックで色を付けたりと親子で熱中し、それぞれオリジナルな時計を完成させた。また、川上国有林 139 林班で行われた「間伐体験・救助法」は森林労連の指導のもと杉にノコギリを入れ「バッキィバッキィ」と音をたて目標通りに倒れると大きな歓声が沸いた。また、山の中でケガをした場合の救急処置として、木を切り作業服等で担架をつくり救助する方法を学んだ。

16 時からのイベント②では、美馬市木屋平総合支所の阿部所長から歓迎のあいさつを受けた後、地元婦人会の皆さん（16 人）が郷土芸能である「笠踊り」を披露してくれた。

夕方のバーベキューは昼間に心地よい汗をたくさんかいたおかげで、子供たちの食欲も旺盛で肉・野菜・ウインナー・おにぎり・スイカを食べて、大人達もビールを飲みながらそれぞれに交流を深めた。また、夜のイベントとして行ったビデオ上映（クレヨンしんちゃん、ドラえもん）も子供たちに大好評だった。

翌日は、朝食後に美馬市の協力のもと新しくできた「連合の森」へ家族・グループ毎に 40 本の苗木（コナラ）を植林し、名札も埋め込んだ。

2 日間天候にも恵まれ、森林労連や県職林務職員、地元美馬市の協力をいただき、標高 1,050 ㍍のすばらしい気候のもと事故無く、サマーキャンプを終了することができた。最後に、今回のキャンプにカンパ等を頂きました構成組織・団体に心より感謝を申し上げます。

連合の森

8月１９日（土）

第５講座は、初の試みとして県外研修視察として神戸市の「阪神・淡路大震災記念、人と防災未来センター」へ１９人がバスで参加した。参加者は、９時３０分から「１・１７シアター」で地震発生により崩壊していくビルや高速道路などの様子を迫力ある大映像を見た後、震災直後のまち並みをリアルに再現した「震災直後のまち」、震災から復旧・復興までのまちと人の姿をドキュメンタリー映像した「大震災ホール」、「震災から復興をたどるコーナー」「震災か学ぶコーナー」「防災ワークショップ」やいのちの尊さと共に生きることの素晴らしさを体感できる「ひと未来館」をそれぞれのペースで３時間見学し、学習を深めた。

9月１日（金）

第６講座は、１０時～１２時の間、徳島市応神町の徳島市民吉野川北岸運動広場で開催された「第２５回徳島市総合防災訓練」に２４人が参加した。

【訓練想定】

９月１日午前１０時頃、南海トラフ沿いを震源とする強い地震が発生し、徳島市では震度６強を観測し、徳島県に津波警報（大津波）が発表された。徳島市の被害については、電気・ガス・水道等のライフラインに被害が続出し、建物の倒壊及び地割れ・山崩れの起こった地域もあった。また、一部の地域では火災も発生した。救出活動等とともに、沿岸住民の迅速な津波からの非難が急がれる。このため、徳島市長は直ちに「災害対策本部」及び「現地災害対策本部」を設置し、防災関係機関に出動要請を行い、住民の避難誘導、負傷者の救出・救護・消火活動、ライフライン等の応急復旧を開始した。

参加者は、警察・消防・自衛隊等の訓練内容を見学するとともに、市民による防災訓練として「水バケツによる消火訓練」に参加し、タンクからバケツに水をくみ火災家屋まで素早くバケツをリレーする訓練を行った。

１０月２１日（土）

実践体験講習Ⅱ（災害図上訓練等）

第７講座は、徳島市東消防署で開催し、２０人が参加した。防災のビデオを見た後、災害図上訓練（ＤＩＧ）について消防署員から説明を受け、実際に机の上に徳島市内中心部の地図を広げ、病院の場所や大きなビル、避難場所に適している場所等をマーカーで色分けして書き込み、実際に災害が起きたときのことを想定し、対応策等について参加者でいろいろと話し合った。

ＤＩＧとは、ディザスター（災害）、イマジネーション（想像）、ゲームの頭文字を取って名付けられ「掘り起こす、探求する、理解する」という意味の英語ＤＩＧに、「防災意識を掘り起こす、地域を探求する、災害を理解する」という意味を重ねたもの。

１１月１８日（土）

第８講座・修了式は、労働福祉会館で開催し、２４人が参加した。第８講座は、元徳島市消防局長の市川勝美さんから「南海地震を体験して」と題して講演を受けた。市川さんは、１９４６年１月に消防手（現・徳島消防署）に入り、警防団常備部に配属されていたが、その年の１２月２１日午前４時１９分に起こった南海地震（マグニチュード 8.0）について、その時の地震や津波被害状況や対応したこと、当時の新聞記事等、実際に経験･体験したことをわかりやすく話された。また、県南を中心に津波による被害はものすごく、家屋の全壊・半壊・流失・焼失、死者も２１１名となった。そして「徳島市内は終戦直後であり、家もあまり建ってなかったが、現在の状況であの地震・津波がきていればどれだけ大きな被害となったかと思うと恐ろしい。防災と人命と町を護るためボランティア活動の重要性と日頃からの訓練と日頃からの助け合いの日常化が大切だ」と訴えられた。

修了式では、藤原会長から修了証書（８講座中５講座以上出席）が手渡され、第６期の養成講座についての総括・反省点等、第７期に向けた意見交換を行った。

第６期ボランティア・サポートチーム養成講座に参加して

（感想文）

この「ボランティア・サポートチーム養成講座」を受講するにあたっては、本講座の募集を聞いて、将来身近に起こるかもしれない大規模な自然災害等に備えて、私自身何か得られるものがあればと思い参加させてもらいました。

内容は、日頃からの災害予防対策や、大規模災害等が発生した際の救援活動を見据えた実践訓練や講義等となっており、特に消防署の方々からご指導を受けた心肺蘇生法やロープワーク等の実習は、自然災害時のみならず、日常生活において事故等に直面した際に実践できるものであり、なかなか習得できるものではありませんが、やはり継続的

に訓練を行っていきたいと思いました。

　また、グループ討議等を通じて、日頃からの地域住民間のコミュニケーションや地域一帯となった災害対策等への取り組みが「万が一」の時の救援活動等の重要なキーポイントであり、その中で私達がリーダーシップを取って、少しでもこの講座で得た知識を発揮させていければと感じました。

　最後になりましたが、本講座を企画・運営いただきました連合徳島の皆様をはじめ関係者の方々に感謝申し上げまして、今回の感想とさせていただきます。

（井川　樹里）

　災害医療は、阪神大震災や様々な災害を経て現在に至るまで日々進歩しています。『災害はいつも違った顔でやってくる』といわれていると同時に、過去の災害を振り返り、分析し、災害弱者の犠牲を如何に減少させられるかが、今後の災害医療の重要なポイントとなっています。その中で、私は災害看護について勉学中であり、災害の備えとして地域でどのような講座が開かれているのか興味があって今回参加させていただきました。

　実際参加してみると、内容は広く、そして深く、学ぶ知識や技術が豊富にあり、どの講義も大変有意義で貴重な経験でした。特に防災未来センターの研修視察は衝撃的な事実を目の当たりにして、今後確実に発生するであろう南海大地震時の徳島県の破壊状況が容易に想像でき、自分が果たすべき災害看護の方向性が見出せたように感じました。

　最後に、本講座を企画運営していただきました連合徳島の皆様をはじめ関係者の方々に感謝申し上げます。

（横田　恵実子）

　今回初めてボランティアサポートの養成講座に参加しました。救命講座では、職場でも毎年しているから大丈夫だと考えていましたが、実技になると戸惑う事がありました。また、ＡＥＤでの心肺蘇生を受講した後に、駅や高速でも設置箱を気にとめるようになりましたが、使うことは無いと思います。

　第５回講座の神戸市・防災未来館で、１・１７阪神淡路大震災を体験しましたが、その震災当時自分は東祖谷山村に住んでいて、地震が長い時間揺れるなと思っただけでし

たが、被災地と離れたところでは大きな違いがあるし、地震の恐さも体験する事ができました。

第６回の徳島市総合防災訓練でも消火訓練だからできただけで、自分が災害に対して何の対処もしていない事が多いと思います。ボランティアという多種多様な範囲になりますが、いざという時に身を守る事と、周りの一人でも二人でも助けられる方法を身につけるようになりたいと、この講座を受講して感じました。

（山下　昭彦）

同じ職場の方から「これはいいよ～」という勧めもあり、「自分の家族や家族を守る術ぐらいは身につけておこうかな～」ぐらいの気持ちからこの講座へさんかを希望しました。

一番心に残ったのは、東消防署で行われた実践体験講習Ⅰ（災害について）で、講師の方々は、不器用な私に笑顔で、三角巾の結び方やロープワークを丁寧にご指導いただきました。しかし、これが実際に災害が発生した時、冷静に対応できるか不安は残っています。

最後に、この講座を企画していただきました関係者の方々にお礼を申し上げます。

（山田　善弘）

いざという時、何か役に立てばと簡単な気持ちで参加しました。ほとんどの講座に参加できませんでしたが、いい加減な対応では、人命に関わることや２次災害を招く危険性があり、もっとしっかりと勉強しなければと反省しています。

社会や地域の中で、労働組合の位置づけや影響力は低下しているし、やもすれば「抵抗勢力」として誤解されることもあります。養成講座を通じて、労働組合の根幹である「助け合いの精神」をもってすれば、社会や地域へのいろいろな関わり方ができるのではないかと思います。将来は、各組織の枠を超えたボランティア・サポートチームができればいいなと思いました。

（西山　幸宏）

第６期連合徳島ボランティア・サポートチームの記録
〒７７０－０９４２
徳島市昭和町３丁目３５－１　徳島県労働福祉会館６Ｆ
日本労働組合総連合会徳島連合会
ｔｅｌ　０８８－６５５－４１０５
ｆａｘ　０８８－６５５－４１１３
e-mail info@tokushima.jtuc-rengo.jp
http://tokushima.jtuc-rengo.jp/